

会 議 録

会 議 名		第 58 回 八王子市ごみゼロ社会推進協議会			
日 時		令和2年(2020年) 11月6日(月)	開始	午前 10 時 00 分	終了 午前 11 時 00 分
場 所		八王子市役所 本庁舎議会棟 4 階 全員協議会室			
出席者	委 員	石井委員、鈴木委員、加地委員、平林委員、河西委員、押山委員、清水委員、安瀬委員、中村委員、大貫委員 以上 10 名			
	事務局等	守屋資源循環部長、木下循環型都市推進専門管理官、真辺ごみ減量対策課長、岡部清掃施設整備課長、森田ごみ総合相談センター所長、鈴木戸吹清掃事業所長、飯塚館清掃事業所長、岡田戸吹クリーンセンター所長、和田北野清掃工場長 【ごみ減量対策課】林課長補佐、田代主査、前川主査、日下主任、下村主任、小口主事、清水主事、森田専門員 【廃棄物対策課】笹崎主任 【ごみ総合相談センター】門倉専門幹、河井主査 【戸吹清掃事業所】小川専門幹 【館清掃事業所】伊勢主査			
欠 席 者		佐戸委員、間嶋委員、天野委員、上村委員 以上 4 名			
議 題 等		1. 令和 4 年度開始予定のごみ・資源物の収集及び処理体制の見直しについて			
公開・非公開の別		公開			
傍 聴 人		なし			
配布資料		<ul style="list-style-type: none"> ・ 会議次第 ・ 八王子市ごみゼロ社会推進協議会 委員名簿 ・ 第 58 回ごみゼロ社会推進協議会 席次表 ・ 資料 1-1 令和 4 年度開始予定のごみ・資源物の収集及び処理体制の見直しについて（第 3 回 収集日及び時間帯の変更について） ・ 資料 1-2 ごみ・資源物収集に関するアンケート調査結果 ・ 令和 2 年度(2020 年度)資源循環白書 ・ 広報はちおうじ 海洋プラスチックごみ削減特集号 ・ ごみゼロ通信 			

<p>会議の内容</p>	<p>事務局より ・ 会議次第と資料確認</p>
<p>本題</p>	<p>1. 令和4年度開始予定のごみ・資源物の収集及び処理体制の見直しについて</p> <p>(ごみ減量対策課 前川主査より資料 1-1 を説明)</p> <p>【意見、質疑応答等】</p> <p>委員：災害時の支援等については、避難訓練への参加率の低さなどから、市民の意識への啓発が行き届いていない面があると感じるが、ごみ収集の観点ではどんな啓発を行っているか。また、災害時のごみ量についてどんなシミュレーションをしているか。</p> <p>市：災害時のごみ収集については、収集カレンダー等を通じて、普段からの片づけが大切であるということを啓発している。また、災害の際のごみ量は、災害の程度によって大きく変わるが、大規模な震災の場合、市内から 200 万トンほどの災害ごみが出るというシミュレーションもある。</p> <p>委員：啓発の際に町会や自治会と円滑な連携をはかるとのことだが、現在はどのように連携し、収集体制の見直し後は、どのようにこの連携を発展させるのか。また、新たな収集日程の周知はいつごろになるか。</p> <p>市：町会、自治会、管理組合及び学校の寮などに対しては、ごみの分別についての出前講座等を行うことによって顔の見える関係を作っているところ。今後も新型コロナウイルスに対応しながら、これらの活動を継続し、さらに良い関係を築いていきたい。また、新たな収集体制等については、令和3年の秋ごろから周知を開始する計画であるが、各地域における具体的な収集曜日等の日程については、新たな収集体制の開始の約1か月前となる令和4年3月頃に、収集カレンダーを市内全戸に配布することでお知らせする予定である。</p> <p>委員：出前講座は1年間にどのくらい行われているのか。出前講座は市民にとって大変勉強になる機会なので、環境学習という意味も含めて、良い形で今後も継続してほしい。</p> <p>市：令和元年度の開催回数は69回。受講していただいた方の人数は4262名。令和2年度は新型コロナウイルスの影響により開催していない。</p>

ごみ・資源物収集に関するアンケート調査結果について

(ごみ減量対策課 前川主査より資料 1-2 を説明)

【意見、質疑応答等】

委員：アンケートの中で 30 代以下の回答割合が低いのはなぜか。40 代以上の市民の住居は、学生等の若い世代の住居と比べて広い場合が多く、ごみを住居内に仮置きしておくのに十分なスペースがあるのではないかと考えられる。若い世代を中心として、比較的狭い住居に住んでいる市民は、1 回/月までならば収集頻度が下がっても問題ないと思うが、それ以上頻度が下がると支障が生じると考えられるため、さらに収集頻度を下げること検討する場合には、改めてアンケート調査を行ってほしい。

市：30 代以下の回答割合が 2.8%と大変低くなっているが、これは、アンケートの対象者が、町会、自治会長やリサイクル推進員で、これらの対象者にそもそも 30 代以下の方の割合が低いためである。ごみの収集頻度についてのアンケート調査は、平成 29 年度からイベントや市政モニターを通じて行ってきたが、今回は、ごみの収集に関して協力関係にある町会、自治会やリサイクル推進員の意見を絞って聞くことを目的として行った。また、若年層の住居の広さについてはご指摘のとおりで、現在のところ、不燃ごみの収集頻度を 1 回/月よりも下げることは検討していない。

委員：不燃ごみの収集頻度が下がり、経費が削減できると思うが、不燃ごみ用指定収集袋の販売価格の変更を検討する予定はあるか。

市：収集頻度とともに収集地区の変更を検討しているため、経費が削減できるかどうか現在のところ想定できない。また、八王子市の指定収集袋の販売価格は、適度な負担感がごみの減量につながるという目的から設定しており、その効果として、50 万人以上の都市では一人一日あたりのごみの少なさが 2 年連続で日本一という実績につながっており、価格の改定は検討していない。

その他

【意見、質疑応答等】

(令和2年度資源循環白書について)

市 : 令和元年度のごみ、資源物量の数値がまとまったので報告する。令和元年度の総ごみ量は、残念ながら前年度よりも1,600トンあまり増加した。内訳としては、可燃ごみ、不燃ごみ及び粗大ごみを中心として増加しており、令和2年2月頃から始まった新型コロナウイルスの影響による外出自粛等が影響していると思われる。また、一人一日あたりのごみ排出量についても、これまで減少傾向だったが、数年振りに増加に転じたほか、事業系ごみについても増加の傾向があり、廃プラスチックの輸出に係る規制等が強化されることもあるため、今後の動向にも注視していく必要があると考えている。一方、総資源化率は前年度と変わらず33.9%で、今後、収集体制の見直し等の取り組みによってさらに向上させていきたい。

(広報特集号について)

市 : 今年度、これまでに2回発行した広報特集号について紹介する。まず、8月15日付けで配布した海洋プラスチック特集号は、専門家へのインタビューや各家庭で手軽に始められる対策等を掲載し、海岸だけでなく市街地をきれいにすることが海洋プラスチック削減につながることを広報した。また、10月1日付けで配布したごみゼロ通信では、昨年施行された「食品ロスの削減の推進に関する法律」において、10月が食品ロス削減月間となっていることや、本市の食品ロス量の推移を示し、食品ロスを減らすために各家庭で無理なく取り組める方法等を紹介した。

(その他)

市 : 現在、紙の削減が求められているが、インターネットの閲覧が困難な方などがいることから、収集カレンダーについては紙での配布を今後も行っていきたいと考えている。紙の収集カレンダーの活用状況はいかがか。

委員 : 収集カレンダーは、自宅内に掲示しておおいに活用されている。テレワークの浸透などにより、これまでごみの分別に関わらなかった方も見る機会が増えていると考えられ、デ

	<p>デジタル化が推奨されているところではあるが、紙の収集カレンダーは今後も必要と感じる。</p> <p>委員：今回報告のあったアンケート調査は、対象者が町会、自治会長やリサイクル推進員であったことから女性の割合が少なかった。ごみの分別には女性が多く関わっているため、特に女性の意見を聞くことができるように、方式を変えるなどして、令和4年度までに何回かアンケートを実施してもいいかもしれない。</p> <p>市：これまで、あったかホールまつり、消費生活フェスティバル、フラワーフェスティバル及び環境フェスティバルをはじめ、様々な機会にアンケート調査を実施してきた。中でも、対象者の男女比がわかっているものとしては平成28年度と令和元年度に実施した市政モニターがあるが、この際の男女比はほぼ1対1で、調査結果は今回のアンケートと同様だった。今後のアンケートについては検討する。</p> <p>市から 次回は、令和3年2月5日（金）の開催を予定している。</p> <p>座長から 会議録の署名については、加地委員にお願いする。</p>
<p>会議録 署名人</p>	<p>令和 年 月 日 署名人</p>